

年 組 名前

2020年3月10日付福井版

芥川龍之介 与謝野晶子 森鷗外

文豪 家族とのエピソード



文豪らが家族に送った手紙や子どもをテーマにした作品などを紹介する展示＝福井市橘曙覧記念文学館で

福井 文章や写真と共に

文豪らの妻や子ども、親との関係に焦点を当てた企画展「作家と家族」が七日、福井市橘曙覧記念文学館で始まった。芥川龍之介のラブレターや、与謝野晶子が息子のことを書いた詩など、明治以降の作家ら十二人と家族のエピソードを文章や写真と共に紹介している。四月二十六日まで。堅苦しいイメージのある

作家たちの人間味あふれる面を見てもらおうという企画。作家が家族に送った手紙や家族写真、作家本人が家族をテーマに書いた作品などを展示している。

芥川龍之介は十六歳の時に、妻となる塚本文と初めて出会い、八年後に再会し恋に落ち、結婚した。展示では龍之介が文に送った「理由は一つしかありません、僕は、文ちゃんが好きです。それだけでよければ、来て下さい」というラブレターの言葉などを紹介。龍之介の真つすくな恋心を知ることができる。

与謝野晶子は十一人の子どもを産み育てながら短歌や詩の創作に励んだ。「悪龍となりて苦み猪となりて啼かずば人の生み難きかな」は近代短歌では画期的な出産をテーマにした作品。子どもに語り聞かせたおとぎ話が後に絵本となった「こけ子とこっ子」や、四男の成長に涙ぐんだことを記した詩なども展示した。

ほかに森鷗外が離れて暮らす子どもたちに送った手紙や、坂井市出身のプロレタリア作家中野重治が妹鈴子に送った手紙、橘曙覧の代表作「独楽吟」から妻や子と暮らす楽しみの歌などを紹介している。

(今井智文)

問1：①芥川龍之介、②与謝野晶子、③森鷗外の代表作を、次から一つずつ選びましょう。

- ア 走れメロス イ みだれ髪 ウ 坊っちゃん
 エ 高瀬舟 オ 羅生門
 ① () ② () ③ ()

問2：橘曙覧の次の3首の下の句を、後から選びましょう。

- たのしみは 朝おきいでて 昨日まで (①)
 たのしみは 妻子むつまじく うちつどひ (②)
 たのしみは 三人の児ども すぐすくと (③)
 ア 頭ならべて 物をくふ時
 イ 大きくなれる 姿みる時
 ウ 無かりし花の 咲ける見る時
 ① () ② () ③ ()

【活用にあって】

たちばなのあけみ

橘 曙 覧は、江戸時代の終わりごろに活躍した歌人・国学者です。有名なのは「独楽吟」という短歌です。全 52 首、すべてが「たのしみは」で始まり「とき」で終わります。問 2 にあるように日々の生活の中での楽しみを温かくすくいあげてます。150 年以上前の歌ですが、古びていません。

中学校での古典の学習では、古典の世界に親しむ態度を育成します。具体的には、昔の人のものの見方や考え方に触れる学習です。自分と古人を比較することによって、時代・社会・言語・文化に変化はあっても、同じ国に住む人間として、喜怒哀楽の情には大きな差異がないことを理解させることが大切です。

ふみ うち

たのしみは そぞろ読みゆく 書の中に 我とひとしき 人をみし時（曙覧）

解答例

問 1 : ①オ ②イ ③エ

問 2 : ①ウ ②ア ③イ